

平成29年2月定例会 本会議議事録（2-1-1）

日時 平成29年3月3日（金） 13:00～14:30

質問者 山本 眞智子 議員（公明党）

答弁者 市長

1 平成29年度予算案について

（1）平成29年度予算案の中において、市長が特に特徴的と考える施策、「いわゆる目玉施策」について伺う。

平成29年度予算案についてお伺いします。本市では、人口減少とともに、政令市で最も高齢化率が高いという厳しい状況の中、平成27年10月に策定した「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方創生の「成功モデル都市」の構築に向けた取組みを進めています。

昨年は、G7北九州エネルギー大臣会合の開催、「ウーマンワークカフェ北九州」や「シニア・ハローワーク戸畑」の設置、また、北九州空港への新たな海外定期便の就航決定など、次なるステップにつながる大きな成果が上がっています。

我々、北九州市議会公明党議員団は、福祉・教育・子育て・環境・雇用など、市民生活に直結する政策のさらなる充実を求めるとともに、国家戦略特区関連事業の推進など、にぎわいのあるまちづくりに向けた取組みを着実に進め、本市の発展につなげていただきたいと強く望んでいるところです。

さて、平成29年度予算案を見ると、「住みよいまち・北九州市発信予算」をキャッチフレーズとして、「女性や若者の定着するまちの創出」、「魅力あるしごとの創出」や「安心して子どもを産み育てることのできるまちの創出」など、私たちの強い思いがしっかりと反映された内容となっており、評価できるものになっています。

また、県費負担教職員の給与負担等の権限移譲に伴う影響を除けば、主要な一般財源の伸びが見込めない中で、子育て支援の充実や、学校施設等の公共施設の老朽化への対応にも取り組むなど、厳しい状況にありながら様々な課題にも的確に対応されていることに、敬意を表するものであります。

そこでお尋ねします。まず1点目に、今回提案された平成29年度予算案は、「住みよいまち・北九州市」を創出・発信する内容となっていますが、この予算案の中において市長が特に特徴的と考える施策、「いわゆる目玉施策」についてお伺いします。

まず来年度予算の中で、いわゆる目玉政策とは何かというご質問でございます。どれも大変重要なものだと思います。その全てについて力を入れるわけでございますが、お尋ねでございますので、その中でも目玉的なものをいくつか紹介させていただきたいと思います。

まず予算を組んだときにどういう名前をつけるかでありまして、去年のメディアにおける非常に高い評価というのは、生活のしやすさ・住みやすさという、一言でいうとそういうところではないかと。したがって「住みよいまち」というところは、これから北九州のPRをするときにもっと表に出して、いろんなところで活用していこうと、そういうフレーズを使ったということでもあります。そして議会でも多々ご指摘を頂いてまいりましたが、同じことを表現・PRするのも、非常に大胆な手法も最近はよく一般にとられるものですから、戦略的な内外に向けての発信を今年もみんなで知恵を出し合って頑張っていこうと、そんな思いで予算編成に臨んだわけでございます。

なんといっても一番は未来人材の支援基金の設置でございます。全国から本市の産業を担う人材を、確保・育成していこうと。そのために基金を造りまして、市内に定住して市内企業に就職する新卒者の皆さまを対象に、奨学金の返済を支援するという初めての試みであります。来年度は企業等からの寄附金と合わせて2億6千万円を積み立てまして、今後3年間で総額5億円規模とする予定であります。

次に、文化を活かしたにぎわいの創出であります。これはシビックプライドの醸成、我がまちに対する愛着・誇り、だからこそここにできれば住んで頑張ってみようとか、そういう気持ちにつながるということで重視をいたしました。

美術館が今年の秋にリニューアルされるわけでございますが、小学3年生は非常に感受性が豊かでありまして、有識者の間では「文化のシャワー」という言葉があるということでもあります。金沢市の市民は小学生の時に必ず一度は大きな現代美術館に行き、ゆったりとクルージングのように美術の時間を過ごすということでありまして、金沢に続いて我が市におきまして、美術鑑賞のプログラムを小学校三年生を対象にスタートをするという初めての試みであります。

映画につきましては、フィルムコミッションが頑張っております。松永文庫も、また今回高倉健さんの特別追悼展も、東京は長い期間で一万八千人でしたが、半分の期間で二万人の方が美術館にお越しを頂きました。本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。やはり映画の街というキャッチフレーズの下に、やれることはまだまだある、そういうところの予算付けであります。

漫画であります。4コマ漫画の賞を初めて作りました。そして半分以上が外国から応募があったということでもあります。松本零士先生を始め、たくさんの漫画家を輩出している街と、これも文化・シビックプライドの面で大変大きな力になりうるということでもあります。日中韓の新人MANGA選手権をスタートする予算を組み込んでおります。

文学におきましては文学サロン、街なかに楽しく文学と出会う場所をつくるという発想、そして文学館の十年史を始めとして、いろんなところに書くものを発表することによって発信をしていくと、そんないろんな顕彰コーナーの事業等を行っております。

そしてスポーツも同じように大変大きな効果があることは、先般のラグビーの試合もそうございました。また海外とのスポーツ交流、あるいはそれを通じた文化の交流、青少年交流につなげるということで、相当程度海外にこの誘致活動を働きかけて

いこうと。特に環境面で、国際貢献で諸先輩が築いてきて頂いた、海外との抜群にすばらしいフレンドリーなネットワークがありますから、それをこれからのインバウンドや観光にも使うし、いろんなことに使っていこうということでもあります。また東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、文化のオリンピック的なものに対するチャレンジと同時に、やっぱり室内プールがないとなかなか海外からお客様を呼べない、そういうものはお金がかかるのですけども、この際新築工事にチャレンジしようということでございます。

次に公共事業のあり方を我々は考えました。昔のようにたくさん使うという財政的余裕はないわけです。しかし考えてみると、熊本で学校が避難所になっていると、そして学校で天井が落ちてくる事故が相次いだということでありまして、無いは無いに工夫して選択と集中で、公共施設の老朽化対策・安全対策に取れるだけの予算を一度選択と集中で確保してみようと、このように思いまして、前年度3.6倍の事業費、学校については4.4倍の事業費を作りまして、公共事業について優先度の高い、そして市民のニーズの高いものを優先的にできる限り確保するという試みを行ったところでもあります。

さて、虎の子の特区であります。今度ワイン特区というものも認められております。平尾台のほうは年頭に民泊特区も始まろうとしておりますが、自動運転やドローン等インフラ点検ロボットは本市の強み、技術の結集がありますので、この特区の推進によって、ロボットの研究開発の集積とあわせまして、ここにもものづくりのまち北九州の伝統の上に立つ、一つの大きな産業をつくっていこうと。それは同時に洋上風力発電のファームづくりと、あるいはMRJの将来を睨んだ空港の活性化ということと相まって、少なくともこうした3つのことは他の都市にはない強みであって、多少時間がかかっておりますけども、これは若い方々の魅力にとっても、大きな産業の基盤になるということで頑張ろうと。そしてものづくりのまちというイメージは大事にしますけども、観光インバウンドで日本全体がどう逞しく生きていくかということはこれから大きいと思いますので、その予算付けについてもできる限りの努力をいたしました。

公明党からも、子育て支援あるいは地域包括ケアシステムなど、たくさんの要望事項を頂いておりましたが、この311億円を待機児童などで確保しまして、800人近い入所定員の拡大などに取組む予定でございます。また難病患者の支援の拠点化は、大変喫緊の課題でございますので、相談支援センターをつくって、難病の医療管理システムの構築、認定体制づくりなどを実施いたします。

また、新しいひと、あるいは企業の投資を呼び込む時に、まちが安全であるという都市のイメージは非常に重要であろうと思います。これまでも議会や市民の方々のご協力を頂いて、安全面においては劇的な成果を上げつつありますし、さらに住民訴訟が起こった場合などの費用を補助するなど、きめ細かく対応して息長く安全な街づくりのためにしっかりと必要な予算を確保してまいりたい。こういうことによって女性や若者が定着するような街づくり、そして世代を超えてみんなが安心して暮らせる街、移住定住の促進、そうした新しいひとの流れをぜひ定着させたいという思いでつくったところでございます。

平成29年2月議会概要

- 期 日 平成29年3月3日(金)
- 質疑及び答弁の概要 「平成29年度予算案について」

	質 疑	答 弁
<p>公明党 山本 眞智子 議員</p>	<p>【議 員】 平成29年度予算案では、「学校施設等公共施設の老朽化対策の推進」を柱に掲げ、特に、学校施設については、最重点の予算配分を行っているとのことですが、この学校施設の老朽化対策の具体的な内容やスケジュールについてお伺いします。</p>	<p>【教育長】 29年度予算案の内、学校施設老朽化対策の具体的な内容、そしてスケジュールについてお答えいたします。学校施設の老朽化対策事業には、先程市長から答弁ありましたけど、前年度比4.4倍の事業費を計上しております。28年度12月・2月の補正予算案と合わせると、33億38百万円でございます。 事業の主なもの、大規模改修事業と外壁改修事業であります。大規模改修は、建物の経年による機能低下を復旧するための、いわば学校内部のリニューアルであります。小・中学校5校での工事、そして30年度以降の工事実施に向けて小・中学校11校の設計を予定しております。 外壁改修は外壁の落下を防止し、建物本体への水の浸入を防止する防水機能復旧の工事であります。小・中学校16校の工事、そして30年度以降の工事に向けた小・中・特支学校15校の設計を予定しております。 学校施設につきましては、建築時期や周辺環境などにより、各校それぞれ状況が異なります。今後のことではありますが、29年度中に全ての学校、212の学校・園の個別の老朽度合いを調べまして、それぞれの学校に適した改修方法や建て替え時期などの検討を行い、学校施設の長寿命化計画、言わば設備・保全計画を策定する予定でございます。 計画策定後は、トータルコストの縮減と財政負担の平準化を図りながら、国の補助制度を活用して財源の確保に努めて、整備・保全に努めてまいります。</p>